三宅島の火山活動 令和8年10月

気象庁
三宅島火山防災連絡事務所

火山活動の状況

三宅島の地震活動や噴煙活動は低調で、火山ガス（二酸化硫黄）[1)]の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、山頂火口内の地熱域では温度や放熱率がわずかに高い状態が認められています。中長期的には、山体深部の膨張を示す地殻変動が続いており、引き続き地下のマグマの蓄積が進んでいると考えられます。

警戒事項

火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性がありますので、山頂火口内 [2)] 及び主火孔から500m以内では火山灰等の噴出に警戒が必要です。地元自治体等の指示に従って、危険な地域には立ち入らないでください。

噴火警戒レベル

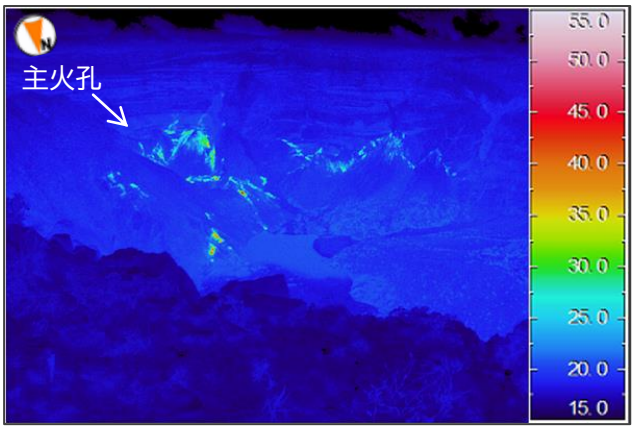
現在は **噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）**

山頂火口内の状況

10月8日に実施した雄山の現地観測（下図）では、主火孔及びその周辺で弱い噴気や地熱域も確認されましたが、前回の観測（8月24日）と比べて特段の変化は認められませんでした。



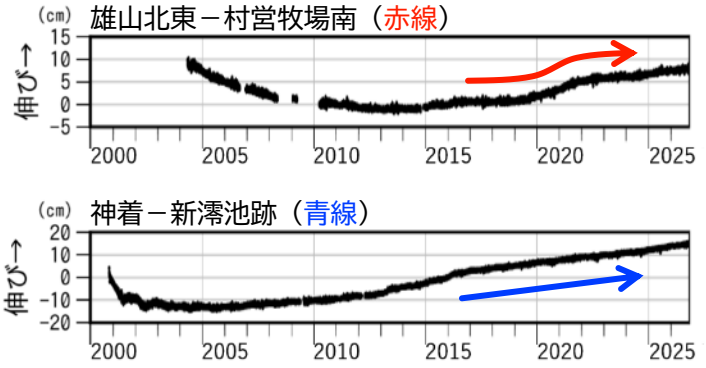
可視：2026年10月8日 05時30分撮影

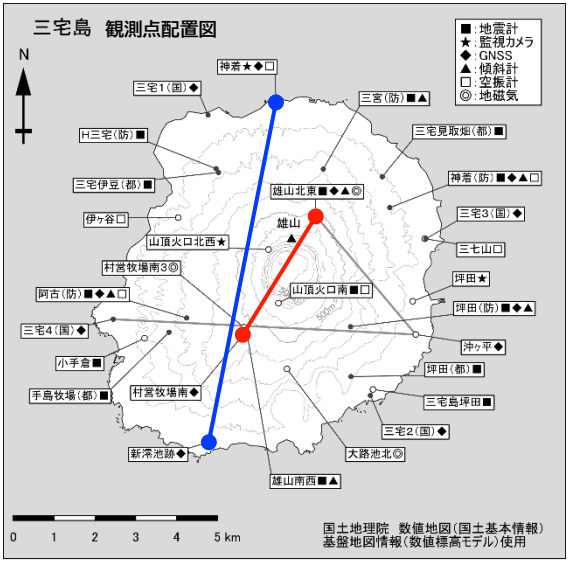


赤外：2026年10月8日 05時32分撮影

北側（スオウ穴）から撮影した山頂火口内の状況

GNSS連続観測 3)による地殻変動





小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
〈国〉：国土地理院、〈防〉：防災科学技術研究所、〈都〉：東京都

赤線の距離の伸びは山体浅部、青線の距離の伸びは山体深部の膨張に対応すると考えられます。浅部の膨張は2023年頃から停滞している一方、深部の膨張は2006年頃から続いており、深部でのマグマの蓄積は進んでいると考えられます。

用語の解説

火山ガス（二酸化硫黄）[1)]

火口から放出される火山ガスはマグマが浅部へ上昇すると放出量が増加します。火山ガスの成分はマグマに溶けていた水、二酸化炭素、二酸化硫黄、硫化水素などです。気象庁では、これら火山ガス成分のうち、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。

山頂火口内 [2)]

山頂火口内とは、雄山山頂にある火口及び火口縁から海岸方向に約100mまでの範囲を指します。

GNSS連測観測 [3)]

GNSSとは全球測位衛星システム（Global Navigation Satellite Systems）の略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。山頂を挟んでGNSS受信機を置き（この2地点間を基線と呼んでいます）、その距離が伸びた場合に山体が膨張、縮んだ場合に山体が収縮していると考えます。

三宅島の火山活動解説資料（令和8年10月）

詳細は「三宅島の火山活動解説資料（令和8年10月）」（令和8年11月10日発表）をご確認ください。気象庁HP（左下の2次元コード、または「三宅島の火山活動解説資料」で検索）の他、村役場玄関のパンフレットコーナーからもご覧いただけます。

お問い合わせ

気象庁　三宅島火山防災連絡事務所

東京都三宅島三宅村阿古497番地（三宅村役場臨時庁舎3階）

電話　04994-5-0980

受付時間は平日の8時30分から17時15分まで。
休日や夜間のお問い合わせは、気象庁火山監視・警報センターに転送されます。

気象庁HP
火山活動解説資料（三宅島）のページ

